令和3年度国指定大雪山鳥獣保護区大雪高原温泉地区ヒグマ監視等業務

完了報告書

合同会社　北海道山岳整備

令和3年11月

目次

1．業務実施結果の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（1）国指定大雪山鳥獣保護区管理棟（ヒグマ情報センター）等の管理
（2）ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（3）職員の研修
（4）現場管理日数等

2．報告書のとりまとめ

ヒグマ情報センターのシーズン作業の流れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2-1．ヒグマ情報センター内管理作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（1）ヒグマ情報センター等の管理
（2）登山者への情報提供（受付作業）※ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（3）展示物の作成※ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（4）その他（コロナウイルス感染対策、物販、募金活動等）

2-2．コース内管理作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1．ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（1-1）ヒグマ情報の収集、記録
（1-2）登山者への情報提供、啓蒙、注意喚起

2-3．ヒグマ情報センター外作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

（1）インターネット等による情報発信
（2）ニュースメディアによる情報発信
（3）職員研修
（4）高原温泉沼めぐり登山コース登山者からのヒグマ情報の収集
（5）携帯トイレブースの刷新及び携帯トイレブースの考察

3．〈参考〉.北海道及び上川町関連業務並びに自主事業 ・・・・・・・・・・・・・ 27

（1）登山道の整備及び維持管理
（2）白雲岳避難小屋との定時連絡

＜巻末資料＞ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

○ヒグマ個体及び痕跡記録表、位置図
○個体識別写真
○エゾシカ個体表
○2021年　登山道付近での目撃・遭遇状況
○ヒグマ観察記録経年変化
○沼巡り登山コース利用者経年変化

＜別添資料＞

○業務管理日誌

1．業務実施結果の概要

(1)　国指定大雪山鳥獣保護区管理棟(ヒグマ情報センター)等の管理

①　建物等の管理

1　開館･閉館の管理

今期は6月19日に冬囲いを撤去を行い開館。10月10日に冬囲いを行い、閉館した。
通常は7:00～16:00までを開館時間とし、常駐しないときには施錠した。

2　管理棟付帯施設の管理など

＜水道など＞
開館日および閉館日に水道栓の開閉を行った。水道ポンプについては別途業務による取り付け、撤去が行われた。
＜し尿汲み取り＞
別途業務により、6月、8月、9月にし尿汲み取りが行われた(今期3回)。

3　巡回等

日々施設内を巡回、点検し、不具合発生等を確認し必要に応じて対処した。
施設内において、今期大きな不具合はなかった。

4　清掃等

毎日業務時間内で清掃を行い、週1度ゴミ回収車へゴミ出しを行った。
※回収業者から瓶やペットボトルが分けられていないとの苦情あり。すべて分別しているので、回収業者が別施設から回収したごみと混同しているものと思われる。

5　管理日誌の記載

日々の作業内容や利用者状況、ヒグマ情報等を管理日誌にパソコンで記録。

②　物品の使用及び管理

レクチャー用のモニターは専用取り付け金具により固定。施設閉館時にモニターは回収し、大雪山国立公園管理事務所に返却。なお、環境省担当官との調整により、金具は取り付けたままにしている。

③　その他の管理

･施設の鍵は閉館時に環境省担当官へ返却した。
･請負者自身において携帯トイレやお土産等の販売のため、販売場所について国有財産使用の許可をとった。

(2)　ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等

① 早朝を含む高原温泉沼巡りコース及び周辺におけるヒグマ出没情報等の収集(※1)
並びに利用者への情報提供(※2)を行った。

※1 ヒグマ出没情報等の収集

○原則としてヒグマ出没時は2名以上の現場巡視体制をとり、定点モニタリング及び巡回しながら登山者とヒグマとの近距離遭遇が起きないようにした。
また、6か所(時期によって変更)に定点カメラを設置し、ヒグマの動向を確認した。

○ヒグマが確認できないときには登山道整備やコース内の点検、センター内にて情報のまとめや展示物作成などを行った。

※2 利用者への情報提供

○センター内のホワイトボードにてヒグマ出没の表示やヒグマ出没カレンダー、沼情報誌の掲載を行った。また、50インチのモニターを使用し、ヒグマの行動記録やコース内の様子を常時流した。レクチャー時においてはPPTを作り、写真や動画を見せながら解説をすることで詳細な情報を伝えることを行った。

○正確なコース情報の伝達や日々のヒグマ情報を利用者に伝え、不要な恐怖心や安易な行動が起きないよう、ヒグマと人間との望ましい共存を目標として、SNSを通じて管理情報を発信した。

○高原温泉以外の大雪山全域におけるヒグマ情報を収集するため、登山者からの記録がどのようなものになるかを検証した。申告者の負担にならず、有益な情報を選別するために、高原温泉沼巡り登山コース内と緑岳、白雲岳避難小屋周辺の情報を利用者から聞き取り、センター員や白雲小屋管理人との情報を共有させて、利用者に提示するようにした。

② ヒグマの出没状況、ヒグマの個体識別情報、ヒグマ個体の行動段階情報等を記録データ化し、管理した。動画や写真などの情報記録は、環境省が貸与したハードディスクに保存した。

○ヒグマの出没状況、識別情報、行動記録等データは巻末資料として別紙に記載

③ 高原温泉沼巡り登山コース及び周辺における利用者に対し、クマよけ鈴及びクマ撃退スプレーの携行を促すとともに、来館者の求めに応じ販売やレンタルを行った。

高原沼巡り登山コース及び緑岳情報を得に来た登山者や周辺の状況を聞きに来た来館者に、鈴やクマよけスプレーの必要性を説明し、携帯を促した。鈴等の携帯がない人には、鈴の販売やレンタルを行った。

(3) 研修の実施

① ヒグマの生態に関わる最新の知見を収集し、職員との情報共有を図るとともに、ヒグマ情報収集の業務が円滑に進むように配慮して行った。

○今期はセンター職員9名のうち5名が新規センター員であったため、日々の業務内容は常に経験者が教えられる体制を作り、とくに7月は経験者と共同でコースを回り情報共有に努めた。
また、センター内に情報共有のためのホワイトボードを設置し重要事項や連絡事項を各自が伝えられる環境を作った。

○ヒグマ情報収集の先進的な取り組みをしている知床財団から職員を派遣してもらい、高原温泉でのヒグマ管理の在り方を検討し、現状も取り組むことが可能な事例や対処方法を学んだ。

○センター職員5名に関して、知床財団に派遣し、ガイドと知床スタッフの連携による情報収集体制作りや現場ガイドの判断、利用者への配慮事項、センター内の情報発信スタイル、知床地区でのヒグマの管理体制等について研修を受けた。

(4)　現場管理日数等

① 現場での管理等は 306 人日（目安として 6 月は 24 人日、7 月は 79 人日、8 月は 93 人日、9月は 90 人日、10 月は 20 人日）以上とする。

	予定人員（目安）	実施人数	一般ボランティア等（巡視等業務手伝い）
6月	24人	50人	0人
7月	79人	120人	2人
8月	93人	111人	0人
9月	90人	130人	25人
10月	20人	46人	6人
合計	306人	457人	33人

＜一般ボランティア等について＞
ボランティアは紅葉時期を中心として巡視業務を行ってもらった。
今期は新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言により、PV（パークボランティア）活動が中止となり、紅葉期におけるPVの人員が見込めなかったため北海道山岳整備が一般に呼びかけて人員募集するなどの対応を行った。

＜実施人数について＞
昨今の登山者や利用において求められるものは、SNSによる情報発信・安全管理や生態系及び景観保全のための登山道管理など多岐にわたっている。4年前までのSNS発信や登山道整備を一切行わない業務内容では、センターの在り方として存在意義が弱く、時代に合っていない業務内容となってしまう。
よって現地保護官や登山道管理者である北海道と協議し、SNS発信や登山道管理も行うため、自主的な増員を行なっている。約150人工（日当15,000円程度、合計2,250,000円）のうち、自主物販での対応が50人工（750,000円）。後の100人工（1,500,000円）はボランティアとして作業している。
現状を維持するには、現業務の在り方を再検討する必要があると考える。

2. 報告書のとりまとめ

ヒグマ情報センターのシーズン作業の流れ

今期のヒグマ情報センターとしての役割において**「コロナ禍でも自然環境や施設の利用と保護対策を進め、ヒグマ情報や登山道情報収集を行い、登山者への情報発信や管理体制を強化する」**という目標を掲げ、そのためのやるべき作業を見出し、優先順位をつけ次年度以降を見据えて、作業を行った。

作業は大きく**「センター内管理作業」「コース内管理」「センター外作業」**の3つに分け、その中で重要度や発展性を考え、シーズンを通してやるべき作業を行った。

＜シーズンを通しての作業の流れ＞

		センター内管理作業	コース内管理	センター外作業
6月	センター開け	モニターレクチャー開始	コース確認、巡視開始	SNS情報発信開始
7月	三笠新道閉鎖	沼情報誌発行	登山道整備開始※	
		展示物作成・刷新	ボランティアによる資材運搬開始※	
		ボランティア受付※		知床財団を招いての職員研修
		募金活動開始※	ボランティア木道整備※	
8月				知床への職員研修
9月	シャトルバス		ヤンベ沢付近の路面処理完了※	
			右コース整備完了※	
	シャトルバス終了			
10月	撤収、コース閉鎖		分岐標識の補修※	
			コース内撤収作業※	
	センター閉め	センター冬囲い		
11月				報告書作成

※北海道及び上川町関係業務及び自主事業を含む

＜日々の作業の流れと人員の配置＞

時間	作業内容(シャトルバス期間を除く)	コース内管理①	コース内管理②	センター内作業	山守隊ボランティア
6:30～	ミーティング(業務確認･配置確認)、展示室内清掃 巡視員出発、ヒグマ痕跡確認	●	●	●	
7:00～	コースオープン、白雲岳避難小屋との定時連絡、 巡視員からの情報連絡	●	●	●	
7:00～	入山者対応、館内清掃、販売物管理			●	
6:30～	施工箇所までの資材運搬	●	●		●
9:00～	定点でのヒグマ確認、観察	●	●		
～14:00	登山道巡視(定点ではない) ※どちらか1名は定点での張り付き観察		●		
～15:00	最終登山者と下山	●	●		
～15:00	写真整理、沼情報紙作成、SNS用データ分類			●	●
～15:00	登山道整備(センター員は登山者が少なく、 ヒグマが確認できないときに作業する。山守隊は終日)	●			●
～15:00	センター内展示物作成、レクチャー用VTR作成 SNSをアップロード(電波が通じる場所まで下山)				●
～16:00	全員でのミーティング、コース内把握、 SNSや展示物の進捗を確認	●	●	●	●
～16:00	白雲岳避難小屋との定時連絡、日報作成			●	

今期は作業員を4名体制として運営している。
･センター業務(ヒグマ(登山道)巡視、登山者へのレクチャー)は3名体制が必須であるが、SNSでの情報発信や登山道管理、ボランティアへの対応など、現地で求められている事柄を行うには3名では足りない。また、ここ3年で記録する機材が変わり、それに伴う記録の煩雑さも増えているため、現状の人員配置や時間配分では作業を終わらせることができない。
登山者への啓蒙はもはや現地での作業以外に、現地に来る計画段階での情報が重要となっており、ヒグマへの知識や登山利用の用意や状況把握をさせることなどはSNSが重要なツールとなっている。しかしながらSNSでの情報発信は業務内容に明記されていないため、自助努力に頼った運営となっており、今後は本業務への位置づけについて検討する必要がある。

2-1.ヒグマ情報センター内管理作業

センター内管理は大きく分けて**「建物の管理」「登山者への情報提供(受付業務)」「展示物の作成」「その他」**の4つを行っている。

(1)ヒグマ情報センター等の管理

・国指定大雪山鳥獣保護区管理棟の管理を行った。

・6月19日に冬囲いを撤去し開館し、管理を開始した。開館時間は7:00～16:00とし、レクチャー業務を行いつつヒグマ情報の提供・問合せに対応した。

・水道は6月15日にポンプ取り付け、10月11日にポンプ取り外しを行なわれ、同時に水道栓の開閉を行った。(別途業務)

・汲み取りは6月と8月、9月に行った(今期3回)。(別途業務)

・館内巡回及び清掃を毎日行い、週に一度ゴミ収集車へゴミを搬出した。

・管理日誌は毎日作成し、日々の情報を記録した。また、ヒグマ情報の管理を行った。

・白雲岳避難小屋との定時連絡(7:00と16:00の2回)を行った。

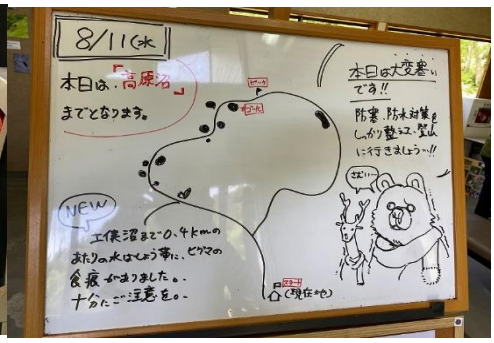
・林野庁事務所および高原山荘との情報共有を行った。

・新型コロナ対策として、利用者への配慮、センター内の隔離等を行った。

10月10日に閉館

紅葉時(繁忙期)の受付

情報提供



歩道及びヒグマセンター利用者

月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
個人	416	416	353	3119	541	4845
(うち外国人)	(5)	(3)	(5)	(14)	(7)	(34)
団体	5	34	41	107	39	226
歩道利用者合計	421	450	394	3226	580	**5071**
来館者	17	94	173	137	26	447
来館者 歩道利用者合計	438	544	567	3363	606	**5518**
個人のうち、 三笠新道通行者	254	91	0	0	0	345

(2)登山者への情報提供(受付業務)

受付業務の流れ
- ・登山者が来館
- ・受付名簿に記入
- ・PPTによる口頭でのレクチャー開始
- ・レクチャー終了後、口頭での注意事項や今現在の様子をレクチャー
- ・登山者が入林

レクチャー時には50インチのモニターを使用し、PPTによる口頭での解説を行った。PPTには写真や動画、イラストを交え、理解しやすく飽きにくい解説とした。

ルート解説やヒグマ情報、紅葉の注意点など時期や状況によって解説内容を都度選択。

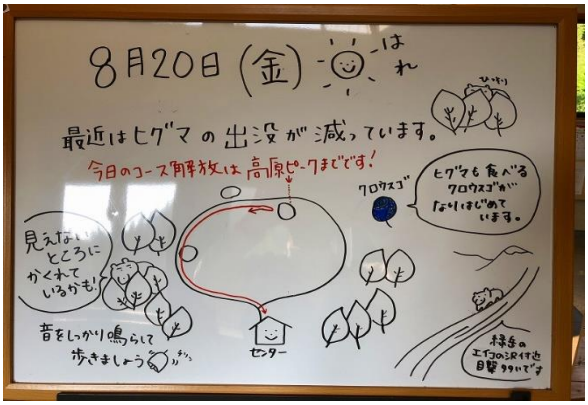
レクチャー時以外は、ヒグマの写真や動画、コース見所のVTRに切り替えて、見学者へと対応した。

今期から32インチのサブモニターも導入し、高原温泉を紹介しているTV録画等を流した。

↓荷上げボランティアへの対応
登山道整備資材を荷上げしてくれるボランティアに対して、作業説明、ボランティア保険への加入、背負子への資材取り付けを行なった。また、使用毎の背負子洗浄、ボランティアへのお土産(ステッカーやジュースなど)の提供も同時に行った。

センター職員は巡視員からのリアルタイムの登山道やヒグマ情報を逐次表に書き込み、登山者へ伝えるようにした。

受付業務従事者はベストと帽子、腕章を着用し、ベストにはネームプレートを取り付け、スタッフとわかるように配慮した。



↑入口正面には最新情報(1週間以内の出来事)をまとめたトピックスを掲示し、ヒグマや登山コース状況に興味を持ってもらう取り組みを行った。

(3)展示物の作成

センター館内において、日々の状況を伝える展示やヒグマの生態やコース内の状況、管理方法等について知ってもらう展示物を作成した。

展示物一覧

	・近況トピックス	・沼巡り情報誌NO.1～NO.10
・ヒグマ出没マップ	・ヒグマ出没カレンダー	・ボランティアによる木材運搬
・コース内で見られる動植物	・高原温泉地区でのヒグマ状況	・ヒグマの生態について
・6,7,8月9月のコースの様子	・近自然工法による整備	・ドローンや食事場所の注意表記

＜ヒグマ出没マップ＞
コース内のどこにヒグマや痕跡が確認されたかをわかるようにしたマップ。
口頭での解説時に使用。

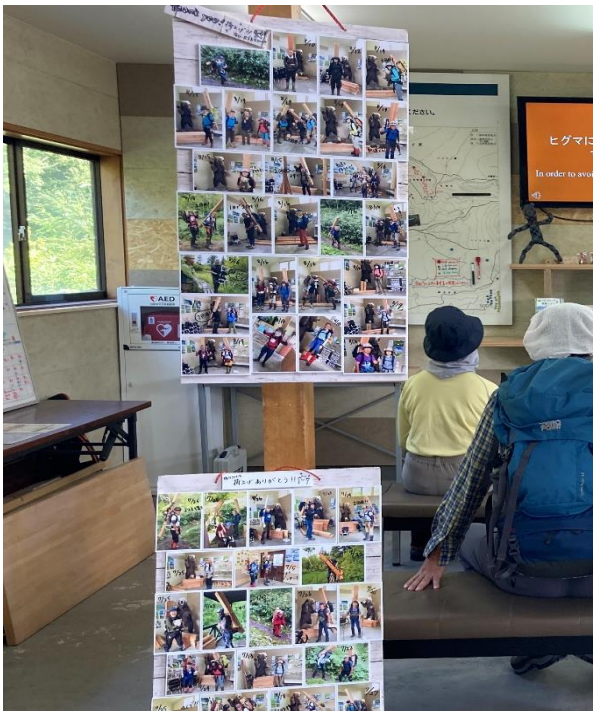
＜ヒグマ出没カレンダー及び沼巡り情報誌など ＞
6～10月において、日々どのくらいヒグマや痕跡が確認されたかをわかるようにした表。
沼巡りの情報を10日に一度発行している情報誌。各関係機関にも送付。

＜高原地区でのヒグマの状況＞
ヒグマが、いつから･どのあたりで生活しているのかをまとめた写真と解説。英語表記も併記。

＜コース内で見られる動植物＞
ヒグマ以外にもコース内で見られる植物や動物を名前(日本語と英語)入りで紹介している。

＜6月～9月のコースの様子＞
時期によって大きく変化する環境を知ってもらうため展示。英語表記も併記。

＜近自然工法による整備解説及びボランティアによる木材運搬＞
日々の登山道整備を伝えるための写真。
登山者に整備のための木材運搬を依頼し、ボランティアによる登山道管理を行った。その様子を登山者の許可を得て掲示。またSNSでも発信した。

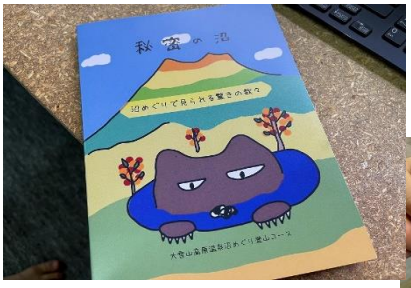


(4)その他

＜携帯トイレを含むお土産品の販売＞
登山道管理の資金を集めるため、センター内で物販を行った。

＜募金活動＞
今期は7月下旬から、登山道補修の資材費の調達資金として、登山者への募金の呼びかけを行った。
約4000人の利用者に対して呼びかけを行い、74万円を超える募金が集まった。
また、2019年の30万円、2020年に集まった64万円の使い道をレクチャー時に簡単な解説をして伝えるなど、募金の透明性を示した。
全額を上川地区登山道等維持管理連絡協議会の事務局である上川町へ寄付した。

＜ガイドブック（日本語版英語版）＞
今期から高原温泉沼巡り登山コースのガイドブックを販売した。価格1,000円。



コースの解説から様々な視点からの動植物の紹介、ヒグマの生態や道の歴史まで、50の事例を取り上げて細かく解説をしている。
日本語版と同時に英語版も作成し、インバウンド対応としている。

＜新型コロナウイルス感染予防対策＞

・対面受付部へのビニールシート設置による飛沫対策
・入口にアルコール消毒設置
・レクチャー時のマスク着用の徹底（センター員・利用者）
・レクチャー時に密にならないようレクチャールームに入る人数を制限
・レクチャー時の窓開放による換気
・ゴム手袋、マスク、フェイスシールドなど、緊急時の備品用意
・紅葉時のレクチャールームへの入室は15名を上限とし、アルコール消毒、マスクの徹底を呼び掛けた。

○センター内管理の課題と対策

＜2020年度のモニターレクチャーについての課題＞

・レクチャーにおけるセンター員解説は、その人のスキルや経験値によって大きく変わることがあり、一貫性がない場合があった。経験が少ない人でも解説ができるように解説内容を取りまとめる必要がある。
・レクチャー時に登山道資材運搬ボランティア対応を行うとセンター内が騒がしくなりレクチャーが聞き取りにくい状況になる。別室か外対応が望ましい。
・日々情報の刷新を行いたいが、ネットワーク環境がないため、資料作成するにもネットがつながる街への移動が必要となり時間や人員が必要となっている。

＜2021年度対策及び対応＞

1．職員のレクチャー研修を行い、発信の一貫性に努めた。全体で3回、個別に複数回行った。
2．三笠新道通行時期、ヒグマ出没期、紅葉時期など状況の変わり目にはレクチャー内容を変更して状況に対応できる内容を作成した。
3．昨年までの動画のみを見てもらうことを止め、PPTでの解説を基本とし、写真や短い動画にセンター員の解説を加えることで臨場感をもたせ、聞いてくれる人の興味が尽きない状況を作った。
4．施設内及び施設外に十分なスペースを確保できなかったため、円滑なボランティア対応を行うことが出来なかった。
5．ネットワーク環境も昨年と同様の状況であり、利用者に適切に情報発信を行うために、ネット環境のある場所に移動する必要がある為、業務を圧迫している。

＜2021年度の課題＞

1．ヒグマや登山道の情報発信体制を現状レベルで維持するにはインターネット環境の改善が必要である。
2．登山道資材運搬ボランティア対応の改善。木材準備や作業内容の解説を外で行わなければ、レクチャーが聞こえ難くなるため、現状では困難である。

2-2･コース内管理作業

コース内管理は大きく分けて**「ヒグマ情報の収集、記録」「登山者への情報提供、啓発、注意喚起」「登山道整備※」**の3つを行っている。

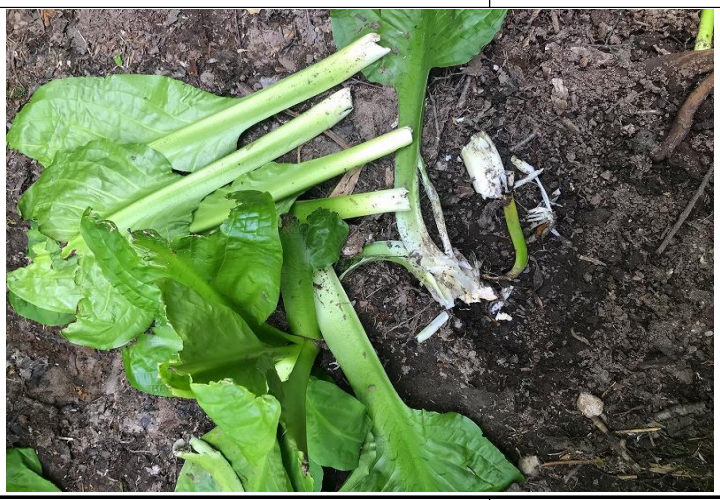
※登山道整備は北海道及び上川町関係業務として第5章に記載した。

(1-1)ヒグマ活動の情報の収集、記録

･コース内の痕跡調査、記録

･ルート上にあるヒグマの痕跡、フン･足跡･食痕･体毛などを確認したときには、速やかにセンターに伝え、登山者へ情報として伝えた。
･また、周辺の調査も行い、移動方向や通った時間の割り出し、足跡サイズからの大きさや雌雄の判別などを行い記録した。
･コース内に6か所の定点カメラを設置し、通過するヒグマを含めた動物の調査、記録を行った。

シーズン全体の記録数

＜フン＞ 大きさ、色、内容物、新旧の判別等	14回の記録	＜食痕＞ 採餌量、移動方向、採餌種類等	19回の記録
			
＜足跡＞ サイズ、頭数、移動方向、 新旧の判別等	18回の記録	＜センサーカメラ＞ 行動、大きさ、性別、親子等	4回の記録
＜体毛＞ 木道に擦り付けた体毛を採取	1回の採取		

・ヒグマの目視、行動の記録

・大学沼、高原ピークの定点より、高根ヶ原斜面のヒグマ個体の目視を行い、行動を記録した。
・登山者がいるときにはヒグマとの距離をしっかりと保ちつつ、登山者に解説をし、観察を行った。

個体確認（親子は1回とする）

76回

高原ピークからの観察

大学沼からの観察

高根ヶ原斜面はヒグマの生活圏であり、草地にいるヒグマは非常に見つけやすい。
ただし、登山道付近のブッシュにいることもあり、定点観察する場合は
登山者が来るまでに付近の状況をしっかり確認することが求められる。

2021年のヒグマの動向（各月の観察状況）

6月	個体確認 4	定点個体 0	足跡 2	食痕 0	フン 0	体毛 0

6月はルート上や高根ヶ原斜面に多くの雪が残り、雪解け直後の場所から植物が育っている状況。

ヒグマは雪解け直後に育つ植物を探し、移動している個体が多い。

今期は雪が多く残り、斜面の草の生育は昨年よりも遅れていた。しかし、ヒグマが斜面や沢沿いなどを行動することが多く、センター員との出会い頭の遭遇があった。

7月	個体確認 61	定点個体 2	足跡 9	食痕 11	フン 9	体毛 0

親子熊が二組いることが確認された。どちらも当歳の子熊のようだった。
その他最低5頭の個体が確認され、それらが高根ヶ原斜面で採餌するときなどはヒグマ同士が数十mの距離で、お互いを認識しつつ生活している。時々、ヒグマ同士が追い掛けあうこともあった。
登山者やセンター員との至近距離遭遇もあったが、危険な状態にはならなかった。

8月	個体確認 17	定点個体 3	足跡 2	食痕 8	フン 5	体毛 0

3年前から目撃されている個体「しろくび」が登山者やセンター員との遭遇が多く、鴨沼にて30mほどの距離で逃げずに採餌している状態があった。これは「人間のことを意識しているが怖がらない個体」であり、注意すべき状況と考え、1周開放を止め、高原沼か大学沼までの往復コースとし、巡視をその区間に集中することで対応した。また、積極的に登山道整備をすることで、常時登山道付近に人がいる、という状況を認識させるよう行動した。

9月	個体確認 6	定点個体 0	足跡 2	食痕 0	フン 0	体毛 0
10月	個体確認 1	定点個体 0	足跡 3	食痕 0	フン 0	体毛 1

9月の目撃は少なくなったが、紅葉期に連続して登山道付近での目撃があった。
今期はハイマツが豊富でクロウスゴなどは少なかった。フンもハイマツの実が多くなり、高山帯での行動が考えられた。
ボランティア巡視員も増員し、紅葉時期のコース開放が行なえるように配置した。

2021年のセンサーカメラ記録

7月22日　ヤンベ沢手前水芭蕉群落

7月27日　右コース沢と展望台の間

8月1日　右コース沢と展望台の間

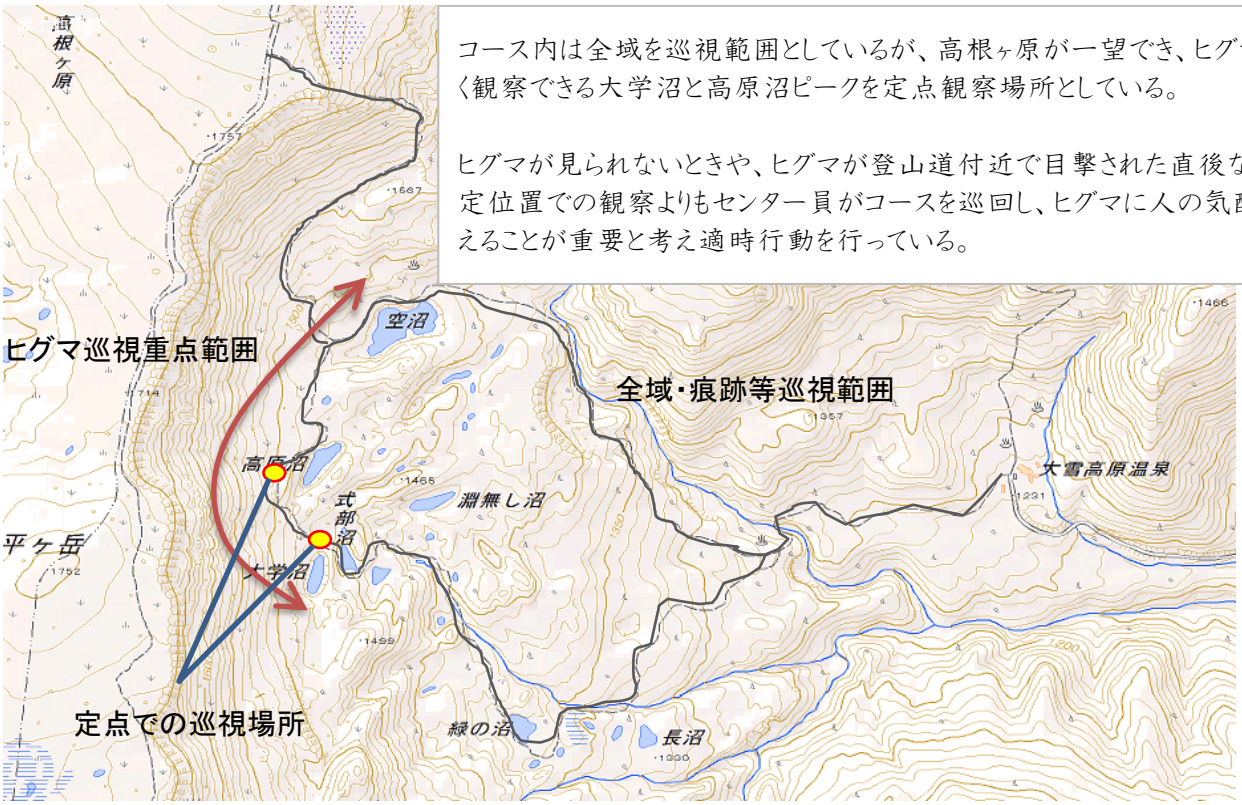
8月27日　湯の沼付近（親子2頭）

昨年と比較して確認数は少なかったが、途中でセンサーカメラが一台故障し、
昨年の3台体制から2台体制に減ったことが影響していると思われる。
ヒグマの姿自体は近距離で映ったものが多かった。
センサーカメラは動画で記録しており、データを報告書ファイルに入れている。

(1-2)登山道においての登山者への情報提供、啓発、注意喚起

コース内は全域を巡視範囲としているが、高根ヶ原が一望でき、ヒグマがよく観察できる大学沼と高原沼ピークを定点観察場所としている。

ヒグマが見られないときや、ヒグマが登山道付近で目撃された直後などは定位置での観察よりもセンター員がコースを巡回し、ヒグマに人の気配を伝えることが重要と考え適時行動を行っている。



定点カメラ設置状況

登山道付近の痕跡調査

土俵沼にて登山者とヒグマ観察

大学沼での遭遇
（登山者提供写真）

センター員と30mの距離で遭遇

距離が近い単独クマ

ヒグマが目撃された時には、常にセンターと連絡を取り合い、登山者とヒグマが接近しないように対応した。

ただし、距離を持って観察できる場合には、その旨を伝え、センター員と共に観察できる状況を作った。

今期登山者と近距離遭遇の事例は6件。いずれもヒグマが近づくことはなく、問題はなかった。センター員との遭遇は4件。うち1件は親子熊によるブラフチャージがあり、緊急事態になる直前であった。また、別個体は人を見ても逃げない状態で採餌を続ける状況もあった。センター員と登山者が30m程度の距離で十数分動かない状況があった。

2-3.ヒグマ情報センター外作業

センター外作業はSNSでの情報発信作業など、電波のないヒグマセンター内ではできない作業を行った。
大きく分けて次の4つの作業である。**「インターネット等による情報発信」「ニュースメディアによる情報発信」「職員研修」「高原温泉沼めぐり登山コース登山者からのヒグマ情報の収集」「携帯トイレブースの刷新及び携帯トイレブースの考察」**

(1)インターネット等による情報発信（ホームページ、Facebook、インスタグラム）

・ホームページ（HP）　　6月～10月10日

ヒグマセンターの要になるFacebook、インスタグラムなどを網羅した発信基盤として作成した。
沼巡り情報誌やヒグマ対策方法、スタッフ紹介なども記載。現在も構成や内容を刷新しながら継続している。
HPでの情報はほかのSNSと違い、常に必要な情報や重要事項を載せている。

トップ画面にはFacebookやインスタグラム,YouTube、ヒグマ出没情報が一目でわかるように配置した。
入山規制や時刻など重要事項を記載した。

ホームページから下記情報を閲覧できるように日々の管理を行った。

・最新ヒグマ情報

・コース案内

・スタッフ紹介

・コース紹介

・アクセス

・沼情報誌

・ギャラリー

・ヒグマ対処法

・お問い合わせ

・youtube

・Facebook

・インスタグラム

・関係機関の連絡先

HPトップ画面

・Facebook　　94回更新

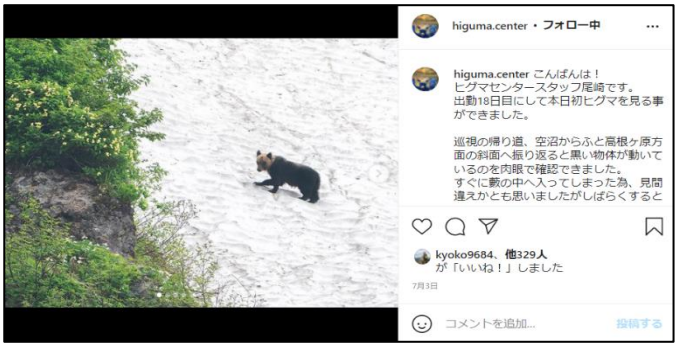
最新の情報を素早く広げるために活用。日々の状況や突発的な出来事、重要事項などをシェア機能を使い、できるだけ多くの人に伝わるよう努力した。

Facebook更新回数				リーチ数の動向			
6月	14回	9月	27回	紅葉情報	900～15645 シェア47	動画	800～1034
7月	25回	10月	12回	三笠新道情報	14846 シェア63	登山道整備	1000～2823 シェア12
8月	15回	11月	1回	携帯トイレ設置	3006 シェア9	ヒグマ情報	7536 シェア40

今期最も多いリーチ数だったのは9月22日の投稿で、「紅葉ピーク」のお知らせと、同時に「登山道でヒグマとの遭遇」があったことによる「今期ドローン使用禁止」のお知らせ記事。15645でシェアが47であった。次いで「三笠新道閉鎖」のお知らせが14846シェア63。紅葉情報は900～15645と幅があったが、ほぼ連日アップしていたのでトータルとしては大きな数字となっている。また、6月29日の「ヒグマによるブラフチャージ」についてもリーチ数が大きく7536シェア40となっており、ヒグマ出没状況やコース利用状況についての投稿がよく見られている傾向にあった。

･インスタグラム　　74回更新

最も気軽に見られている情報網として活用。写真が主になるため、コースやヒグマ、センター職員などのインパクトや面白味のある画像を定期的に発信している。



フォロワーは昨年度871から1299に増え、コロナ禍で来ることができない人も状況を見ていると思われる。
荷上げや整備ボランティアに来てくれる人も、きっかけはインスタグラムの閲覧が多く、今後も試行錯誤をもって情報発信を続けていくべきと考える。

(2)ニュースメディアによる情報発信･･･オンライン記事、テレビ放映

「NHKほっとニュース北海道」によりテレビ放映が行われた。
また、10月8日の「ほっとニュースweb」に記事が掲載された。

テレビ放送	NHK「ほっとニュース北海道」10月1日放送
web記事	10月8日「ほっとニュースweb」

NHK「ほっとニュース北海道」より

NHKホームページ「ほっとニュースweb」より抜粋

(3)職員研修

・センター職員のスキルアップの為、ヒグマ対応の先進的な取り組みを行っている知床財団職員2名に来てもらい、座学及び実地研修を実施。また、客観的な視点での業務運営を行えるようにするために、職員5名を知床財団に派遣し、知床でのガイド体制や受付業務、職員対応などの研修を行った。

ヒグマ情報センターでの研修

ヒグマの生態や出会った時の対応、知床で行っているヒグマ対応等についての座学

知床財団の職員と一緒に沼めぐりコースを歩き、現地でのヒグマ痕跡確認や管理体制等について確認

クマスプレーの使用方法を、練習用スプレーを用いて実践

知床財団を訪問しての研修

知床財団職員に自然センター施設内やウトロ町内を案内してもらい、ヒグマ対応等の日常業務について研修

実際にツアーに参加し、知床のガイド業務を見学

(4)高原温泉沼めぐり登山コース登山者からのヒグマ情報の収集

・登山者からのヒグマ情報をわかる範囲で他の利用者に通知すべく、登山者からの情報を積極的に集め、それを用いた発信もできるように行動した。
・今期は登山者とヒグマの遭遇事例が多く、ヒグマの出没状況を把握し伝えるうえで非常に効果があった。
・近距離での遭遇が多かったことから撮影を行う状況ではなく、写真の提供は少なかったが、登山者からの情報としてSNSでの発信やレクチャーでの出没状況説明を積極的に行った。今後も情報が集まりやすいように登山者への協力をお願いしていきたいと考える。

下記は高原温泉沼めぐり登山コース登山者からのヒグマ情報	
7/6	一周している登山者が、雪壁温泉付近にて、上部から歩いてきたヒグマと10m程の距離で遭遇。登山者に気付き、驚いて逃げていったとのこと。登山者は鈴や笛を鳴らして歩いていた。「レクチャーを聞いていたから落ちついていることができた」とのこと。
7/25	ヤンベ沢手前の水芭蕉群落付近にて、ヒグマが去っていく姿を登山者が目撃。約20m程の距離だったとのこと。
8/6	登山者2名、緑沼の先の木材置き場付近にて、木道右側(沢側)30～40m程の距離にいるヒグマを目撃したとの報告。
9/16	雪壁温泉とロープ場の間の沢沿いにて、登山者がヒグマと10m程の距離で遭遇。草が伸びた場所から突然出てきた為驚いて「あっ」と声を出すと、こちらに気付いて登山道を横切って逃げて行ったとのこと。鈴は持参しており、「ヒグマがいそうな雰囲気だな」と思っているとちょうど現れたそうで、「レクチャーのおかげで心の準備をしながら歩くことができて、焦らず対応できて良かった」とのこと
9/21	土俵沼から30m程下った場所にて、登山者がヒグマと遭遇。距離は30m程だったとのこと。ヒグマをはさんで反対側にも登山者がいた。挟まれた形となったヒグマはショウコの沢上流へ逃げていったが、その後緑沼対岸にいるところを、緑沼で休憩中の登山者が目撃している。
9/26	一周している登山者(親子)が、右コース1.4km付近で、沢側からコース中心部へ移動中のヒグマに遭遇。ヒグマは登山者に気が付いていない様子だったため、静かに引き返す。引き返している途中で後からガイド2名と会い、ガイドが登山者を挟む形で下山。

(5)携帯トイレブースの刷新及び携帯トイレブースの考察

今期も昨年に続き、携帯トイレブースの作成、設置、管理を行った。
今期は、昨年設置したエゾ沼手前に再設置を行うと共に、昨年までテントブースだった緑沼奥にも木製携帯トイレブースを設置。(エゾ沼のブースは昨年度解体し、残置していたものを再度設置したが、構造上の問題は生じていなかった。)
センター員は巡視中、携帯トイレを使用しているが、これまでは紅葉時期以外はブースがなく、対応に苦慮していた。センター員は女性もいるため、コース開放期間中は清潔なトイレブースが必要であった。また、登山者からの要望も多く、管理されているコースとして必要なものだった。

現在大雪山で設置されているトイレブースは非常に高価であり、必要箇所に多々設置することは困難と思われる。
今後を考えて、安価で強度があり交換が可能なものとするため、北海道山岳整備が設計し作成した。
「資材費10万円以内」「地元のホームセンターで購入可能な資材」「ボルトオンでの取り付け」を目標としている。

エゾ沼手前

昨年度コース閉鎖時に解体して現地に残置していたトイレブース。
雪が解けると同時に再度組み立て設置を行った。

・内部の様子
清潔感と明るさを重要と考えた内部。床が汚れた場合は簡単に取り外しができるので、近くの流れで洗い流すことが可能。
・室内には携帯トイレの使用方法の掲示をしている。
・紅葉時期はトイレ内に携帯トイレを常備し、利用した時に下山時に清算するシステムを行った。

・カギは利用者の有無もわかるように色付きとなっている。

・ドアは重りをぶら下げ、自動的に閉まるようになっている。

緑沼奥

・資材の購入（ホームセンターコメリでの購入）
・部品の作成
・防腐塗料の塗布等

・荷上げ・・・約200kgの重量の資材を、センター員が数日に分け荷上げを行った。
・設置・・・緑沼奥の登山道脇に設置。石材を置くことで水平箇所を作り、基礎の柱を置いた。基本的に地盤を掘ることはせず、地面に置いて4点からのロープ及びらせん杭での固定とした。
・ボルトオンでの取り付けを行い、木ねじやインパクトドライバーを使わずに設置した。

・屋根の取り付け・・・屋根は光が入るようにポリカーボネート材を使用。この部分だけは取り付けに専用くぎを使用した。

・基礎部には石材を置き、ロープ及びらせん杭で固定。

点検と撤去

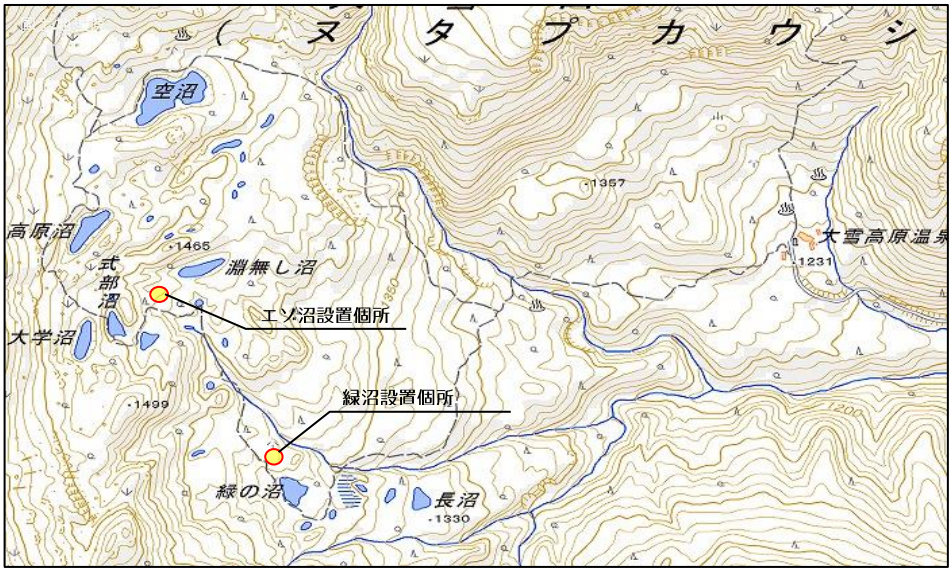
・携帯トイレブースの点検
設置後は、携帯トイレブースの清掃、利用方法の説明等を行った。また、コース閉鎖時には解体し撤去を行った。

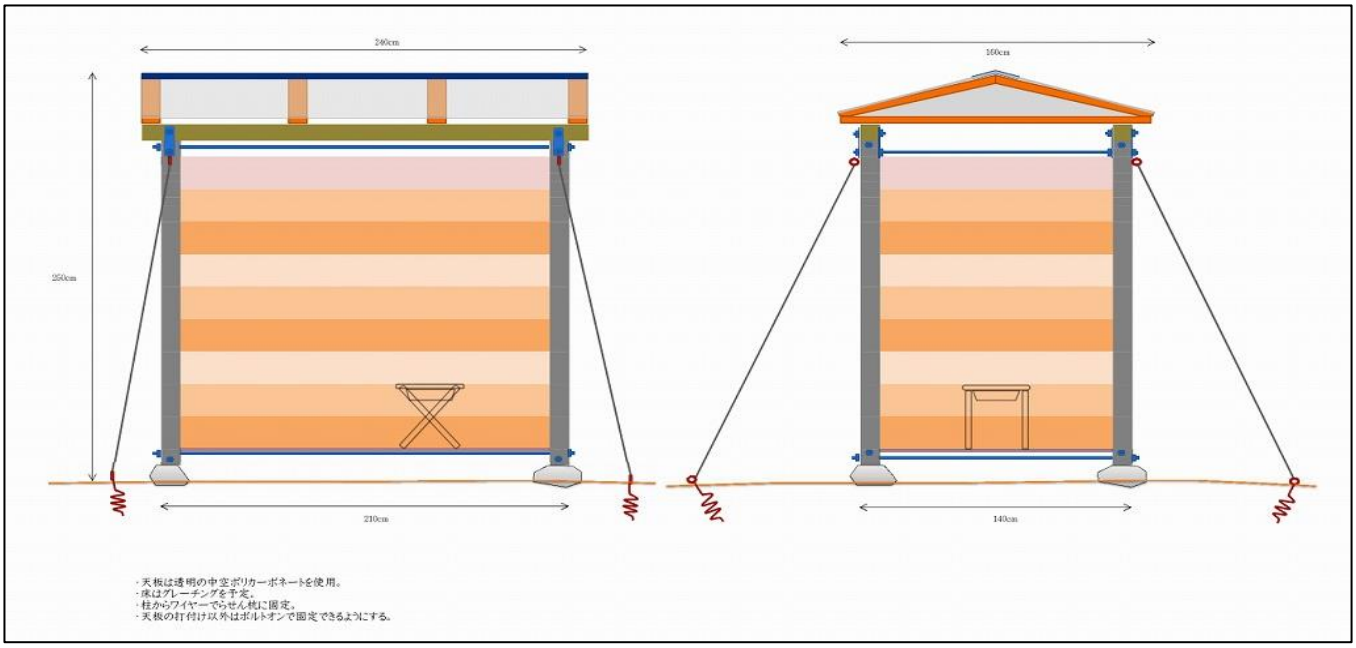
解体時の様子

緑沼トイレブースの残置状況

エゾ沼トイレブースの残置状況

携帯トイレブース位置図





・トイレブースの設計図
・10月6日に解体し、現場にシートをかけて残置した。来年にまた設置を行う。
・強風への対応は完全ではないが、風の影響が少ない場所では十分に対応できる。
・資材費、作成費、設置費込みで50万円ほどで作成可能と思われる。

○センター外作業の成果と課題

情報発信についての成果と課題

＜成果＞
・登山者へのヒグマについての啓発や登山道管理への理解という意味では、ここ3年間の成果は大いにあったと思われる。SNSを見て「登山道整備」や「ヒグマ情報」を事前に理解して、装備や準備をしてくる人の割合が多くなり、情報発信を心待ちにしている人も見られた。また、リピーター率も上がり、何回も来る人はとくに作業の手伝いや募金などを積極的に行ってくれるなど利用と保全について登山者としてできることを自発的に考えて行動してくれるようになっている。NHKや読売新聞など、今後も継続的に登山道やヒグマの状況を見続けてくれるメディアや、コロンビアなどのアウトドア企業も利用と保全への視点を持ち始めている。今後も様々な形の情報発信と行動への理解が得られるようなアイデアを発信してく必要がある。
＜課題＞
・課題としては昨年同様インターネット環境が改善されれば、情報センターとして大きく飛躍する可能性がある。
現状では発信するために最低でも50分以上かけて街へ降り、フリーWIFIもしくはスマートフォンのテザリング機能を使っての発信となるため、時間も人員も消費している状態である。ヒグマ情報センターの当初はSNSによる情報発信がない業務であったが、情報センターとして機能するにはSNSの活用は最重要と考える。
今期はセンター員を増員し、SNS担当を入れることで対応しているが、今後は情報発信体制への費用が必要となっている。

職員研修についての成果と課題

＜成果＞
・今期は知床財団の職員が高原温泉での研修を行ってくれたことが、センター員への大きな刺激になっている。ヒグマへの具体的な対処方法はもとより、座学を通して客観的な視点でのヒグマ対応への理解が進んだ。
高原温泉での研修と知床での実地研修の後、各人がレポートを書き、知床との比較や高原温泉での発展方法などを自発的に考えるようになった。今後も知床財団とは連携できるようにしているので、さらなる人事交流を行う予定である。
＜課題＞
・最新の知見として知床財団を研修先としているが、研修や高原温泉と知床との人事交流を行うための費用や日程を確保することが現状体制では困難である。
今回知床財団職員を呼ぶための費用が約15万円(2人二日、旅費など含む)。知床への研修費が5万円(交通費、ガイド料、宿泊費用はセンター員が持つ自宅など)、また知床財団現地での研修費は無料という破格の待遇だが、それでも最低20万円ほどは必要となる。
ヒグマに関する様々な問題が起きている昨今としては、ヒグマに関する知見は最新の事象が望まれる。ヒグマ対応の先進地として知床財団への研修を仕様書上に明記し、情報センター業務としての質の確保、向上を行う必要がある。

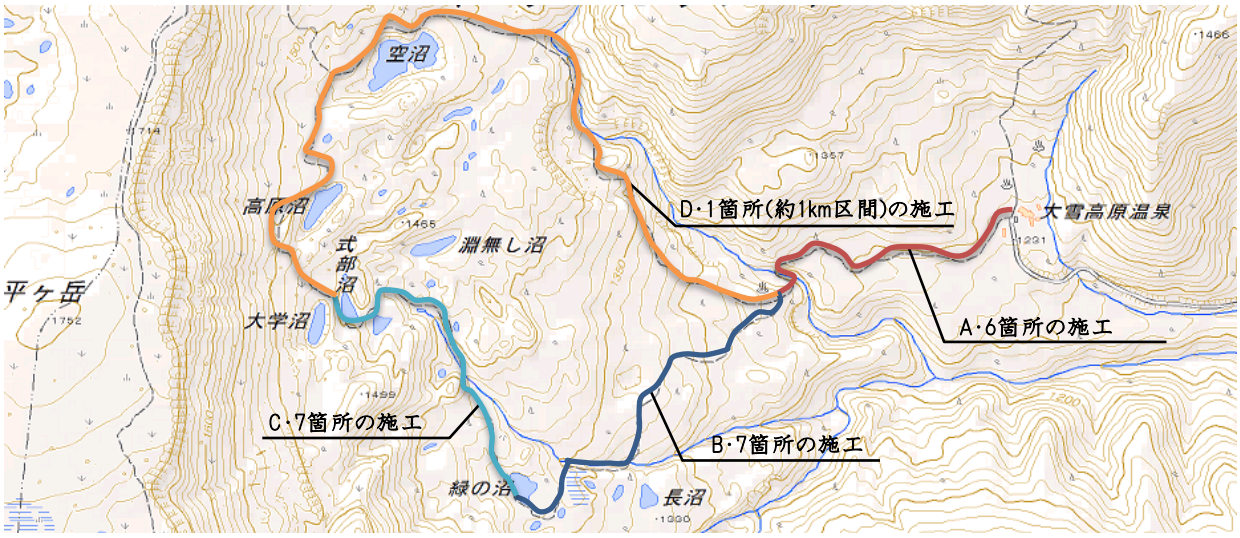
携帯トイレブース設置についての成果と課題

＜成果＞
・2020年のエゾ沼に加え今期緑沼にも木製トイレブースが設置できたことは有意義だった。利用者からも清潔感や広さなど、今までの携帯トイレの概念を超えて「利用しやすい」との声が多く、山岳地での携帯トイレのあり方を示すことができた。
残置状態からの再組立て時には木ねじが折れているなどトラブルもあったが、補修対応と新規ブースには木ねじを使わない方法の施工など新たな改善を試すことができた。
＜課題＞
・木材の金額が3割ほど上がり、10万円以内での資材購入が難しい状態。今期も北海道山岳整備がすべての資材購入、作成、設置を行なったが、そのための費用や人工は持ち出しやボランティアで賄っている。
「センター員が使うためのトイレ」という位置づけならば、業務の中での設置という位置づけになることを希望する。

3.≪参考≫北海道及び上川町関係業務並びに自主事業

(1)登山道の整備及び維持管理

今期は右コースのぞき地獄上部のぬかるみ区間を中心に、ぬかるみが著しい箇所へ、昨年の募金により購入した木材を使用した木道設置及び交換作業を行った。また、式部沼までの区間において段差処理や路肩保護等の整備を行った。



①登山道整備及び補修

コース全体における木道設置数:合計65基

A･ヒグマ情報センター～ヤンベ分岐	木道設置･段差処理･路肩保護など6箇所の施工

A･ヒグマ情報センター～ヤンベ分岐

B.ヤンベ分岐～緑沼	木道設置7箇所の施工

C.緑沼～大学沼	木道設置･段差処理･路面処理など7箇所の施工

D.大学沼～ヤンベ分岐	木道設置1箇所（約1km区間）の施工

②携帯トイレブースの点検

携帯トイレブースの清掃、利用方法の説明、撤去などを行った。

③植生保護ロープの設置と回収、既存木道などの軽微な整備

雪解けとともに、各所にて植生保護ロープや誘導ロープを設置。10月9日にすべて撤去を行った。
既存の設置物が崩れている場所ではその都度整備を行った。

④残雪期のポールマーキング･ピンクテープ設置、残雪期の雪割作業

残雪期に道迷いがないように、道しるべとしてポールマーキングや枝へのピンクテープマーキングを行った。
残雪期には登山者に大きな被害が出ないように、崩れやすい個所の雪割を行い、安全なルートを示した。

⑤ヤンベ沢の単管撤去

景観保全のため、北海道との協働でヤンベ沢に残置してあった簡易橋用の単管をすべて撤去した。

(2)白雲岳避難小屋との定時連絡(7:00と16:00の2回)

今期は白雲避難小屋において、無線機の電源を入れっぱなしにしてもらい、日々2回の定時連絡とともに、白雲協力金などの連絡も逐次取り合い、登山者の動向などを連絡しやすい状況とした。

○コース内管理の課題

＜ヒグマ巡視についての課題＞

・今期はセンター員がヒグマのブラフチャージを受ける事態となり、対応を一つ間違えば人身事故になった可能性がある。状況としては沢沿いであり、親子熊がいて、子熊の一頭が木に登ってすぐに動けない状況、見通しが悪い状況など、たまたまが重なって起きた形だが、親子熊がコース内で生活していることは変わらず、今後も登山者、センター員にかかわらず同様の遭遇が考えられる。緊急時の対応や連絡系統の見直しなどが必要と思われる。
・「しろくび」と呼ばれる4歳程度の単独熊が「人を恐れない個体」となっている。登山者との距離が20~30mであっても平然と採餌している状況は、ここ数年いなかった個体である。「人に近づく個体」にならないような対策とコース閉鎖も含めた対応を考える必要がある。来年「しろくび」がコースから離れて暮らすことも考えられるので、すべての対応を事前に考えておく必要がある。

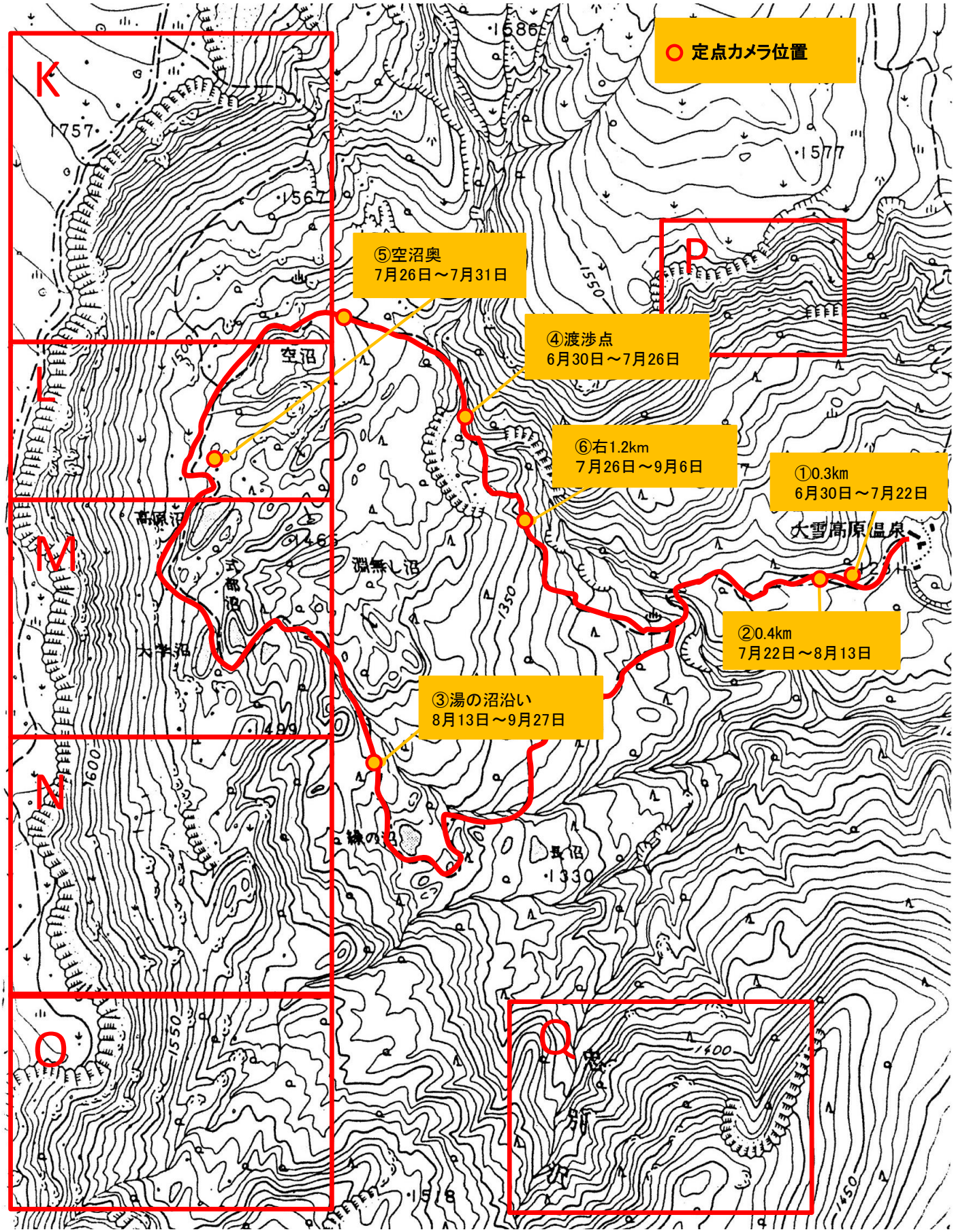
＜登山道管理についての課題＞

登山道整備は本業務内ではなく、ボランティアとしての作業である。今期は北海道山岳整備としての増員を行ない、登山道整備にかかわる人員を作っている。コース管理において登山道整備は必須であるが、このままでの業務管理体制ではボランティアの延長での作業しかできず、管理システムが機能しているとはいえない。
登山道整備の費用や情報発信としての費用を業務として確保し、作業の一つとして行っていくことが望ましいと考える。

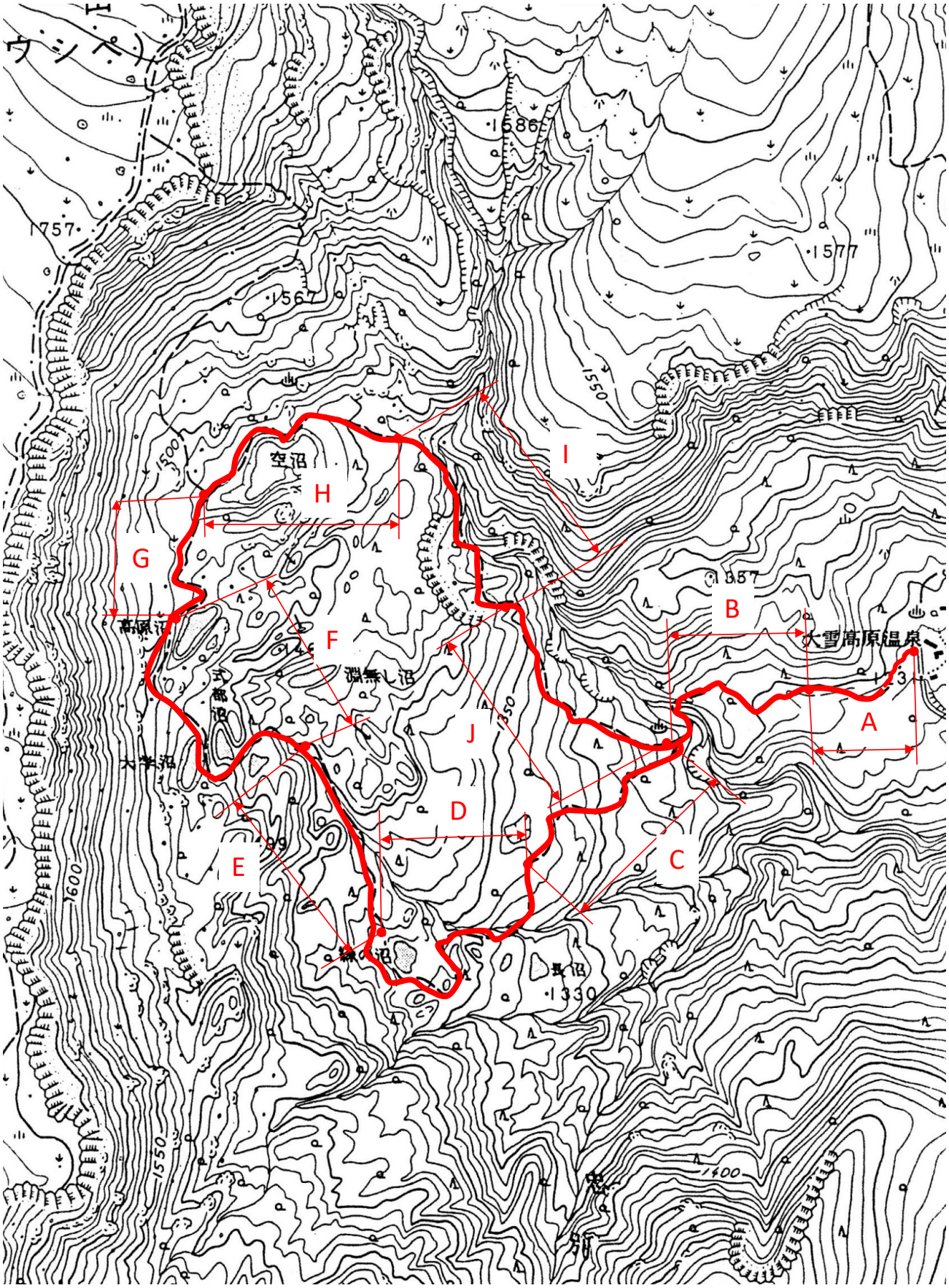
巻末資料

○ヒグマ個体及び痕跡記録表、位置図
○個体識別写真
○エゾシカ個体数
○2021年登山道付近での目撃・遭遇状況
○ヒグマ観察記録経年変化
○沼巡り登山コース利用者経年変化

2021年ヒグマ確認記録位置図1（個体）



2021年ヒグマ確認記録位置図2（痕跡）



2021年ヒグマ個体及び痕跡記録表001～050

No.	日付	痕跡形態	場所	個体		前掌幅(cm)	採食物	糞	体毛	備考	地図記号
				頭数	識別名						
1	6/19	個体	大学沼直上部	1							F
2	6/21	足跡	雪壁温泉50m下部			12cm					H
3	6/26	足跡	三笠・空沼分岐付近			12.5cm					H
4	6/29	個体	リュウキンカ沢	3						親子(親1子2頭)	I
5	7/2	糞	空沼分岐付近				フキ	1			H
6	7/3	個体	空沼分岐上部	1							G
7	7/6	個体	三笠部斜面	1							H
8	7/6	個体(遭遇)	雪壁温泉10m	1							H
9	7/7	個体	三笠水平部から斜面を移動	1							H
10	7/7	糞	空沼上部					1			H
11	7/9	足跡	ヤンベ分岐200m先			12.5cm					C
12	7/10	足跡	雪壁温泉超えた沢の手前			13.5cm					H
13	7/10	足跡	雪壁温泉超えた沢の手前			11.5cm					H
14	7/11	糞	雪壁温泉手前					1			I
15	7/11	個体	大学沼奥の雪渓	3						親子(親1子2頭)	F
16	7/11	個体	三笠新道上部	1							G
17	7/11	足跡	空沼より300m程上部								H
18	7/13	個体	三笠水平部斜面崩落箇所	2						親子(親1子1頭)	G
19	7/13	個体	三笠水平部斜面	1							G
20	7/13	個体	三笠水平部斜面	1							G
21	7/13	個体	三笠新道藪周辺手前	1							G
22	7/14	個体	水平部斜面	1							G
23	7/14	個体	三笠分岐崩落斜面	2						親子	G
24	7/14	個体	水平部斜面	1							G
25	7/16	個体	三笠水平部から大学沼上部の藪	1							G
26	7/16	足跡	三笠水平部から大学沼上部の藪								G
27	7/16	糞	三笠水平部から大学沼上部の藪					1			G
28	7/17	個体	大学沼奥草地	1							F
29	7/17	糞	空沼と雪壁温泉の間					1			H
30	7/17	足跡	空沼入り口トンネル			12.5cm					H
31	7/18	個体	三笠水平部上部	1							H
32	7/19	個体	ヤンベ分岐手前のミズバショウ帯	1							B
33	7/20	個体	U点斜面	1							G
34	7/20	個体	三笠新道斜面奥	1							G
35	7/20	食痕	ヤンベ分岐手前ミズバショウ帯				ミズバショウ				B
36	7/21	食痕	ヤンベ分岐手前ミズバショウ帯				ミズバショウ				B
37	7/21	足跡	ヤンベ分岐手前ミズバショウ帯								B
38	7/21	個体	三笠奥斜面	1							H
39	7/21	個体	三笠奥斜面	1							G
40	7/21	個体	三笠奥斜面	1							G
41	7/21	個体	三笠奥斜面	1							G
42	7/21	個体	大学草地	3						親子(親子2頭)	F
43	7/22	個体	大学沼上部斜面	3						親子(親1子2頭)	F
44	7/22	個体	U点	1							G
45	7/22	個体	U点	2						親子(親1子1頭)	G
46	7/22	個体	高原ピーク正面の斜面	1							G
47	7/22	糞	高原沼と三笠分岐の間					2			G
48	7/22	食痕	右コース沢に下る手前				ミズバショウ				J
49	7/22	食痕	右,ヤンベ分岐まで400m地点				ミズバショウ				J
50	7/22	個体	ヤンベ手前水芭蕉群落	1							B

個体
定点個体
足跡
食痕
糞

2021年ヒグマ個体及び痕跡記録表051～100

No.	日付	痕跡形態	場所	個体		前掌幅(cm)	採食物	糞	体毛	備考	地図記号
				頭数	識別名						
51	7/23	個体	崩落箇所付近	2						親子(親1子1頭)	G
52	7/23	個体	三笠奥斜面	1							G
53	7/23	食痕	ショウコノ沢手前				ミズバショウ				D
54	7/23	食痕	ヤンベ分岐付近				ミズバショウ				B
55	7/23	糞	空沼分岐三笠方面					1			F
56	7/24	個体	大学草地斜面	1							G
57	7/24	個体	三笠奥斜面	1							G
58	7/24	個体	コウモリ雪渓奥	1							F
59	7/25	個体	三笠奥斜面	1							G
60	7/25	個体	ヤンベ橋手前水芭蕉群落	1							B
61	7/25	個体	大学沼上部斜面-草地	1							F
62	7/25	食痕	ヤンベ橋手前階段横				ミズバショウ				B
63	7/25	食痕	のぞき地獄から300m				ミズバショウ				J
64	7/25	足跡	のぞき地獄から300m			15cm(後)					J
65	7/25	糞	のぞき地獄から300m					1			J
66	7/25	糞	空沼					1			H
67	7/26	個体	鴨沼～大学沼上部	1							F
68	7/26	個体	大学草地斜面	1							F
69	7/27	個体	右、沢と展望台の間	1							J
70	7/28	個体	大学草地奥斜面	1							F
71	7/28	個体	大学草地斜面	1							F
72	7/28	個体	三笠水平部	1							H
73	7/28	食痕	鴨沼手前				ミズバショウ				E
74	7/29	個体	大学草地奥斜面	1							F
75	7/29	個体	大学草地奥斜面	1							F
76	7/29	個体	大学草地斜面	1							F
77	7/29	食痕	湯の沼手前水芭蕉				ミズバショウ				E
78	7/29	足跡	湯の沼手前水芭蕉			13cm					E
79	7/29	食痕	ヤンベへの登り手前水芭蕉				ミズバショウ				B
80	7/30	個体	大学草地斜面	1							F
81	7/30	個体	コウモリ雪渓奥斜面	1							E
82	7/30	個体	三笠水平部	1							G
83	7/30	個体	三笠水平部奥斜面	1							G
84	7/30	個体	三笠水平部奥斜面	1							G
85	7/31	個体	2の谷草地	1	シロクビ						G
86	7/31	個体	U点	1							G
87	8/1	食痕	緑沼奥				ミズバショウ				E
88	8/1	個体	右、沢と展望台の間	1							J
89	8/2	個体	三笠水平部	1							G
90	8/2	食痕	鴨沼前沢沿い				ミズバショウ				E
91	8/2	糞	空沼奥					2			H
92	8/3	個体	ピーク斜面	1							G
93	8/3	個体	ナナカマドトンネル	1							G
94	8/4	個体	三笠奥斜面	1	かゆい						G
95	8/4	個体	高原ピーク	1	シロクビ						G
96	8/4	個体	三笠分岐50m上部	1							G
97	8/5	個体	大学沼120m上部斜面	1	シロクビ						F
98	8/6	個体	緑沼先木道脇	1							F
99	8/7	個体	大学草地	1	シロクビ						F
100	8/8	個体	コウモリ雪渓	1	シロクビ						E

個体
定点個体
足跡
食痕
糞

2021年ヒグマ個体及び痕跡記録表101～132

No.	日付	痕跡形態	場所	個体		前掌幅(cm)	採食物	糞	体毛	備考	地図記号
				頭数	識別名						
101	8/8	食痕	土俵沼200m手前				ミズバショウ				D
102	8/8	食痕	緑沼木道側				ミズバショウ				D
103	8/9	足跡	土俵沼まで0.4km地点水芭蕉			13cm					E
104	8/9	食痕	土俵沼まで0.4km地点水芭蕉				ミズバショウ				E
105	8/9	個体	大学沼奥斜面	1							F
106	8/11	個体	ピーク斜面	1	シロクビ						G
107	8/12	個体	ピーク斜面	1	シロクビ						G
108	8/12	食痕	滝見沼				ミズバショウ				D
109	8/13	食痕	耳沼				ミズバショウ				E
110	8/14	個体	三笠分岐上部	1	シロクビ						G
111	8/14	個体	三笠奥斜面	1							H
112	8/14	個体	コウモリ雪渓横草地	1							E
113	8/14	糞	空沼手前					2			H
114	8/15	食痕	湯の沼100m先のミズバショウ帯				ミズバショウ				D
115	8/20	糞	空沼脇					1			H
116	8/27	糞	大学沼側					1			E
117	8/27	個体	湯の沼先	2							E
118	8/29	個体	大学草地斜面	1							E
119	8/30	糞	大学沼対岸				ハイマツの実	2			F
120	8/30	足跡	高原ピークから空沼			10cm					G
121	9/2	個体	大学草地斜面	2	親子					親子(親1子1頭)	E
122	9/2	個体	コウモリ雪渓右上	1							E
123	9/8	足跡	鴨沼手前沢沿い			12cm					E
124	9/8	足跡	式部沼、エゾ沼間の階段								E
125	9/16	個体	雪壁温泉100m下部	1							H
126	9/21	個体	土俵沼手前	1							D
127	9/26	個体	右1.4km看板付近	1							I
128	10/3	体毛	空沼分岐標識						1		H
129	10/8	個体	空沼	1							H
130	10/8	足跡	空沼			16cm					H
131	10/9	足跡	空沼から雪高原ピーク			10cm					H
132	10/9	足跡	空沼から雪壁温泉			12cm					H

	6月	7月	8月	9月	10月	合計
個体	4	61	17	6	1	89
定点個体	0	2	3	0	0	5
足跡	2	9	2	2	3	18
食痕	0	11	8	0	0	19
糞	0	9	5	0	0	14
体毛	0	0	0	0	1	1

(個体確認数を記載)

白首

7月16日から8月14日までの間、高根ヶ原斜面の様々な場所で観察された個体。大学沼や高原ピーク上部等、比較的登山道から近い位置で生活していることが多い。首回りの白い部分が目立つ。7月26日には鴨沼で採食中に巡視員と近い距離で遭遇しており、こちらを気にしつつもしばらく採食を続ける日もあった。今後も同行を注視することが必要。

かいかい

7月6日から8月14日までの間、高根ヶ原斜面で生活していた個体。三笠水平部方向での確認が多い。
毛の一部が無く、かゆそうに身体をかく動作をしていることが多いが、昨年に比べ症状が良くなっているように見受けられる。

親子3頭

6月29日に右コース沢沿いで巡視員と近距離遭遇している親子熊。
7月11日、7月21日、22日には大学沼対岸、大学草地等で生活している様子が確認された。

親子2頭

7月14日、7月22日に三笠水平部方面で観察された親子熊。
9月2日には大学草地斜面奥で活動している様子が見られた。

オス

10月8日、空沼で姿が確認されたオスの個体。

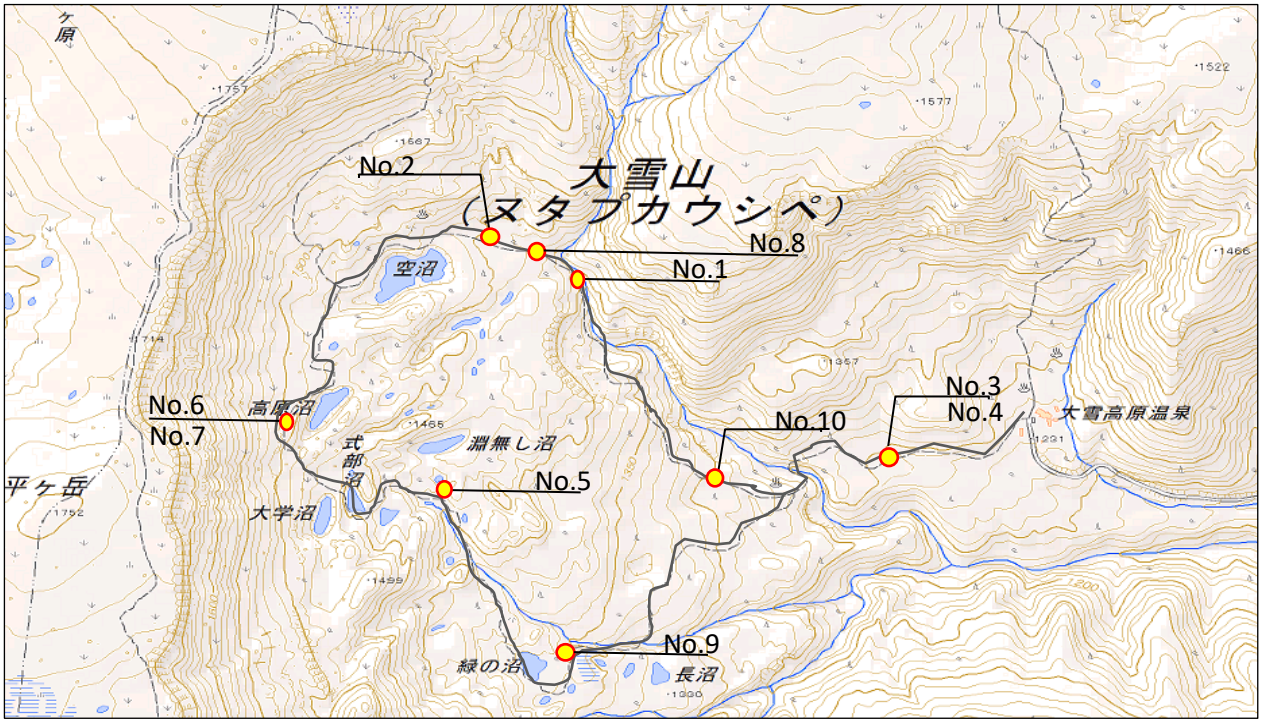
その他の個体

7月3日から7月14日まで高根ヶ原斜面で活動していた個体。主にブタ雪渓や三笠水平部で観察された。
顔周りの毛が少し薄茶色であることが特徴。

2021年　エゾシカ頭数調査票

日付	6月	7月	8月	9月	10月
	頭数	頭数	頭数	頭数	頭数
1		3	1	0	4
2		0	5	21	0
3		4	0	0	0
4		3	5	2	0
5		6	2	10	0
6		1	0	1	0
7		0	5	4	0
8		1	0	8	1
9		4	1	0	0
10		2	0	2	
11		4	3	2	
12		3	2	5	
13		3	4	3	
14		0	0	5	
15		0	3	3	
16		0	10	2	
17		1	0	2	
18		1	8	1	
19	1	1	0	0	
20	1	0	1	0	
21	4	5	2	2	
22	2	2	3	3	
23	5	3	0	3	
24	3	3	11	2	
25	3	4	0	0	
26	2	1	0	2	
27	6	0	3	4	
28	3	1	0	0	
29	0	0	3	0	
30	2	0	8	1	
31		0	1		
計	32	56	81	88	5

2021年　登山道付近での目撃･遭遇状況



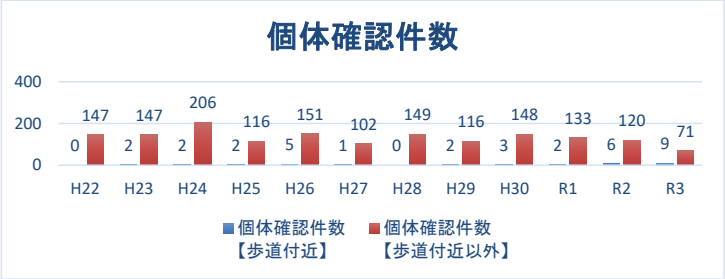
目撃日	6月29日	①＜センター職員目撃＞※ 9:00頃、右巡視中、沢沿いリュウキンカの急坂手前で親子熊に遭遇。気がついたときは5m程度で、母グマが突進しブラフチャージを受ける。1m程度まで近づくがその後立ち去る。子熊は2頭いて、1頭は母グマと逃げ、もう1頭は巡視員に近い位置にある木に登る。母グマと木に登った子熊は呼びかけあっていた。この間5分程度。巡視員はクマスプレーを取り出すも使わず、ヒグマの行動を見つつ対応。最初子熊は1頭と思い、親グマが去った後付近確認をしていたが、木に登った子熊と母グマが呼びかけ合いだして、子熊の存在を認識し、急いでその場を離れた。
場所	渡渉地点とロープ場の間	
鈴等の携帯	有	
目撃日	7月6日	②＜登山者情報＞※ 一周した登山者(二人)が雪壁温泉付近にて、10m程の距離で遭遇。ヒグマが登山者の存在に気付き、驚いて逃げていった。
場所	雪壁温泉	
鈴等の携帯	有	
目撃日	7月19日	③＜センター職員目撃＞※ ヤンベ分岐手前のミズバショウ帯、登山道から10～20mの距離にて遭遇。おそらくヒグマが先に気付いており、ヒグマが離れていく途中に巡視員と目会い、その後姿を消した。
場所	0.7km	
鈴等の携帯	有	
目撃日	7月25日	④＜登山者情報＞※ ヤンベ橋手前の水芭蕉群落で去って行く個体の後ろ姿を登山者が目撃。約20m程の距離だったとのこと。
場所	0.8km	
鈴等の携帯	有	
目撃日	7月26日	⑤＜センター職員目撃と登山者情報＞※ 8時頃、鴨沼敷地内で採食中のヒグマ一頭とセンター員が遭遇。こちらを気にしながらも去っていくことなく食事を続ける。8時40分頃ゆっくりと鴨沼奥の斜面へ去って行く。その間に来た登山者は、センター員とともに鴨沼で待機。9時半頃、右回りで巡視してきたセンター員が鴨沼上部にヒグマがいないことを確認し、待機中の登山者全員と一緒に大学沼へ行く。大学沼へ到着した際に、鴨沼にいたヒグマが大学沼上部の草地にいることを確認。その後もずっと草を食べ続けていた。
場所	鴨沼	
鈴等の携帯	無	
目撃日	8月4日	⑥＜センター職員目撃＞※ 個体1頭、高原ピークにて巡視員10m程の距離で遭遇。こちらに気が付き上部ヤブの中に逃げていった。
場所	高原ピーク 高原沼	
鈴等の携帯	有	

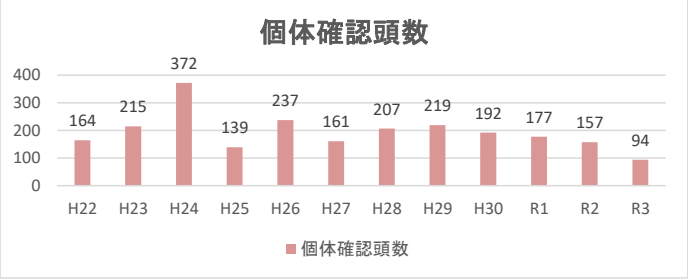
目撃日	8月6日	⑦＜登山者情報＞ 女性2名一組の登山客からヒグマの目撃情報。緑沼の先にある木材置き場のある木道の右側、3～40m程離れた場所の谷になっている地点にヒグマ個体1頭（体長1．5m程）を確認。
場所	緑沼奥	
鈴等の携帯	有	
目撃日	9月16日	⑧＜登山者情報＞※ 雪壁温泉とロープ場の間の沢沿いにて登山者がヒグマと10m位の距離で遭遇したとのこと。草が伸びた場所にて横から出て来てこちらが「あっ」と声を出したら登山道を横切って逃げて行ったとのこと。
場所	雪壁温泉とロープ場の間	
鈴等の携帯	有	
目撃日	9月21日	⑨＜登山者情報＞※ 土俵沼から下部30mの地点でヒグマと遭遇。ヒグマを挟んで向こう側に別の登山者がおり、挟む形となる。ヒグマはショウコノ沢上流方面に逃げ、その後緑沼対岸にいるのを、緑沼で休憩していた登山者が目撃している。
場所	土俵沼当たり	
鈴等の携帯	有	
目撃日	9月26日	⑩＜登山者情報＞※ 13時40分ごろ右コース1･4m付近でヤンベ沢付近からコース中心部へ移動。目撃されたクマは特徴は小さいクマ、登山者に気が付いていない模様だった。目撃したので、異端引き返したが、そこで後から来た登山者二名（ガイド）と会い、親子をそのガイド二名で挟んで下山した。
場所	右1.4km	
鈴等の携帯	有	

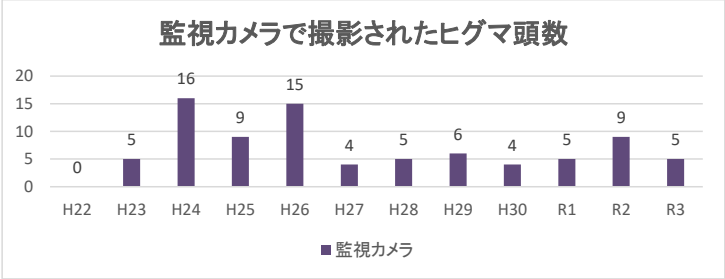
※次項の集計表における歩道付近の個体確認件数については、沼めぐり登山コース内で確度が高情報であるNo.①、Ni.②、No.③、No.④、No.⑤、No.⑥、No.⑧、No.⑨、No.⑩の件を計上した。

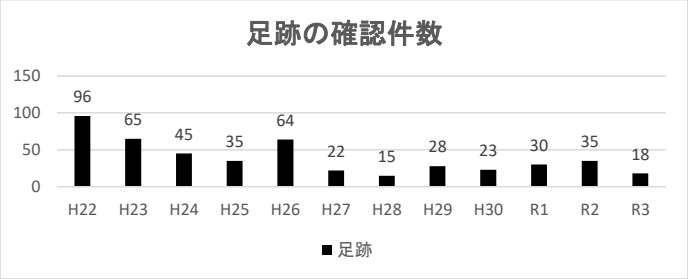
（参考）ヒグマ観察記録経年変化

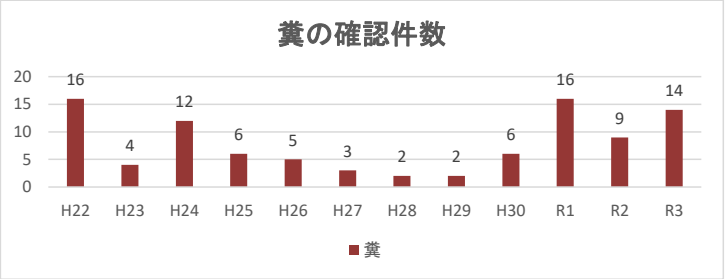
年度	個体確認件数【歩道付近】	個体確認件数【歩道付近以外】	個体確認件数合計	個体確認頭数	監視カメラ	足跡	糞	食痕	体毛
H22	0	147	147	164	0	96	16	25	1
H23	2	147	149	215	5	65	4	2	3
H24	2	206	208	372	16	45	12	40	7
H25	2	116	118	139	9	35	6	7	2
H26	5	151	156	237	15	64	5	18	3
H27	1	102	103	161	4	22	3	16	0
H28	0	149	149	207	5	15	2	14	0
H29	2	116	118	219	6	28	2	13	0
H30	3	148	151	192	4	23	6	26	0
R1	2	133	135	177	5	30	16	25	1
R2	6	120	126	157	9	35	9	29	1
R3	9	71	80	94	5	18	14	19	1

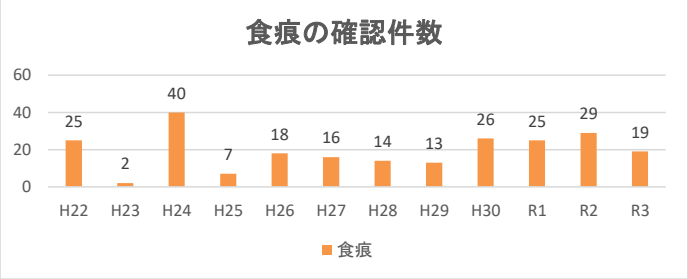


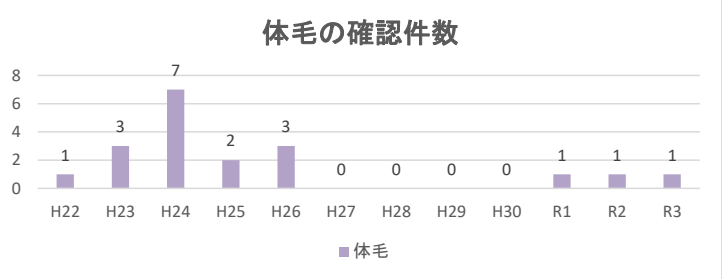


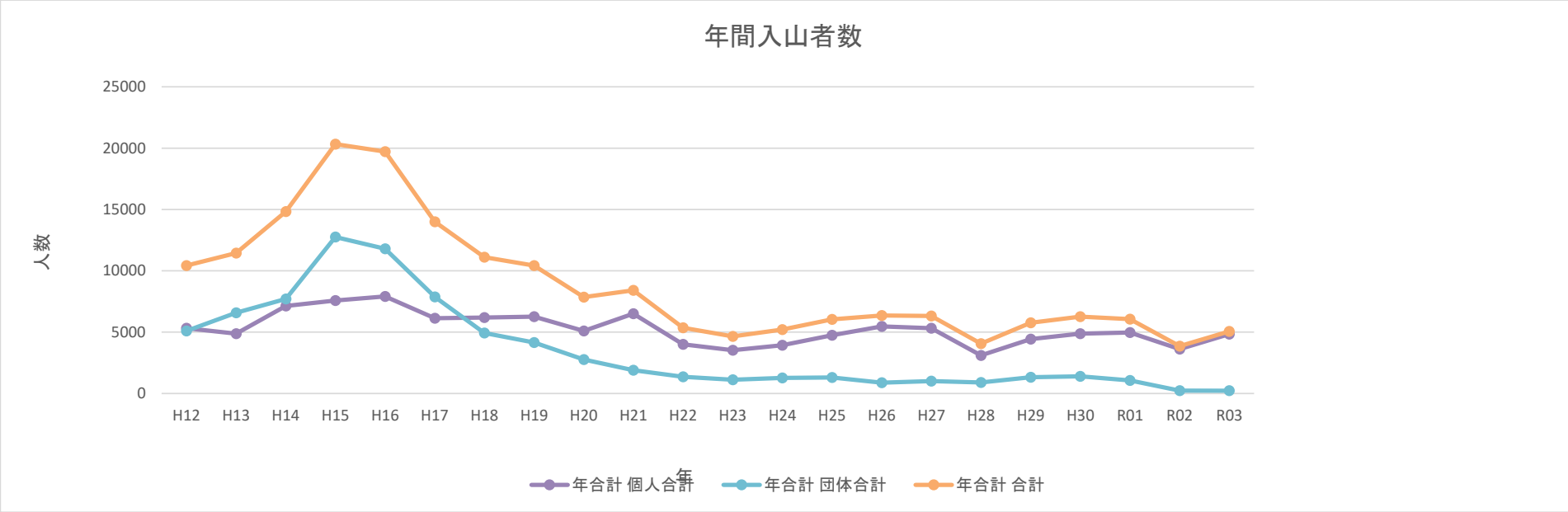










（参考）大雪高原沼沼巡りコース入山者集計表

年	6月			7月			8月			9月			10月			年合計		
	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人合計	団体合計	合計
H12	47	0	47	241	287	528	306	48	354	4037	4494	8531	691	278	969	5322	5107	10429
H13	44	0	44	296	220	516	367	117	484	4091	5692	9783	81	545	626	4879	6574	11453
H14	73	225	298	276	917	1193	292	67	359	6206	6198	12404	285	296	581	7132	7703	14835
H15	69	425	494	442	3987	4429	377	732	1109	6506	7247	13753	181	364	545	7575	12755	20330
H16	130	432	562	414	4631	5045	379	532	911	6774	5799	12573	216	411	627	7913	11805	19718
H17	60	210	270	395	2813	3208	330	232	562	4872	4464	9336	473	151	624	6130	7870	14000
H18	54	70	124	385	220	605	300	144	444	4385	4052	8437	1060	441	1501	6184	4927	11111
H19	74	26	100	385	245	630	355	25	380	4821	3478	8299	639	388	1027	6274	4162	10436
H20	182	48	230	367	154	521	301	22	323	4061	2483	6544	183	63	246	5094	2770	7864
H21	157	44	201	311	87	398	69	15	84	5830	1700	7530	136	56	192	6503	1902	8405
H22	95	23	118	373	57	430	258	36	294	2851	1192	4043	425	46	471	4002	1354	5356
H23	76	15	91	286	92	378	262	125	387	2692	859	3551	207	34	241	3523	1125	4648
H24	71	0	71	296	58	354	286	58	344	1703	1154	2857	1584	0	1584	3940	1270	5210
H25	135	38	173	277	118	395	237	42	279	3118	1080	4198	987	20	1007	4754	1298	6052
H26	199	24	223	305	113	418	96	14	110	4617	631	5248	257	93	350	5474	875	6349
H27	157	40	197	349	60	409	266	59	325	4500	853	5353	42	0	42	5314	1012	6326
H28	112	32	144	345	141	486	231	41	272	1696	558	2254	796	121	917	3108	893	4073
H29	77	42	119	381	95	476	234	17	251	3257	1100	4357	393	69	462	4442	1323	5765
H30	152	49	201	349	150	499	381	50	431	3658	1130	4788	332	14	346	4872	1393	6265
R01	151	0	151	382	47	429	302	80	382	3682	868	4550	453	89	542	4970	1064	6054
R02	99	7	106	325	10	335	386	19	405	1892	194	2086	923	7	930	3625	237	3862
R03	416	5	421	416	34	450	353	41	394	3119	107	3226	541	39	580	4845	226	5071